

社会福祉法人 クローバー 定款

第1章 総則

(目的)

第1条

この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第1種社会福祉事業

(イ) 軽費老人ホームの経営

(2) 第2種社会福祉事業

(イ) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 就労継続支援B型

(ロ) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 就労移行支援事業

(ハ) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 共同生活援助、短期入所事業

(ニ) 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業

(ホ) 介護保険法に基づく地域密着型サービス事業 地域密着型通所介護事業

(ヘ) 介護保険法に基づく居宅サービス事業 訪問介護

(ト) 介護保険法に基づく介護予防訪問介護事業

(チ) 介護保険法に基づく地域密着型サービス事業

小規模多機能型居宅介護事業の経営

(リ) 介護保険法に基づく地域密着型サービス事業

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業

(ヌ) 介護予防・日常生活支援総合事業の経営

(ル) 保育所の経営

(ヲ) 地域子育て支援事業の経営

(ワ) 一時預かり事業の経営

(カ) 放課後児童健全育成事業の経営

(ヨ) 障害者総合支援法に基づく移動支援事業

(タ) (介護予防) 短期入所生活介護事業

(レ) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

(ソ) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 就労継続支援A型

(ツ) 児童福祉法に基づく指定障害児相談支援事業

(ネ) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 居宅介護

(ナ) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 重度訪問介護

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人クローバーという。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、子育て世帯、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を長崎県長崎市滑石5丁目9番51号に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事、事務局員、外部委員の内、合計3名以上（外部委員1名以上を含む）で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して各年度の総額が50,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任

(2) 定款の変更

(3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1 項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15 条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1 項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第1 4 条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した評議員のうちから選出された議事録署名人二名はこれに記名押印する。

第4章 役員及び職員

（役員の定数）

第1 5 条 この法人には、次の役員を置く。

（1）理事 6 名以上

（2）監事 2 名以上

2 理事のうち一名を理事長とする。

（役員の選任）

第1 6 条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選定する。

2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（理事の職務及び権限）

第1 7 条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 理事長は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第1 8 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（役員の報酬等）

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

（責任の免除）

第22条 理事又は監事が任務を怠ったことによって生じた損害について社会福祉法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、社会福祉法第45条の20第4項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第113条第1項の規定により免除することができる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

（職員）

第23条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第25条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長の選定及び解職
- (4) 寄付金の受け入れに関する決定

(招集)

第26条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第29条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、公益事業用財産の3種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 長崎県長崎市小江町86番地の1所在の敷地1筆（6, 294. 43平方メートル）
- (2) 長崎県長崎市大浜町934番地の1所在の宅地1筆（1512. 72平方メートル）
- (3) 長崎県長崎市大浜町934番地の4所在の宅地1筆（30. 36平方メートル）

- (4)長崎県長崎市岩瀬道町14番18所在の宅地1筆(237.45平方メートル)
- (5)長崎県長崎市岩瀬道町14番19所在の宅地1筆(16.49平方メートル)
- (6)長崎県長崎市岩瀬道町14番20所在の宅地1筆(11.37平方メートル)
- (7)長崎県長崎市小江町86番地1、178番地2所在の鉄筋コンクリート造陸屋根3階建の小浦の里施設1棟(701.47平方メートル)
- (8)長崎県長崎市小江町86番地の1所在の木造スレート葺平屋建1棟(140.10平方メートル)
- (9)長崎県長崎市小江町86番地の1所在の木造スレート葺平屋建1棟(71.03平方メートル)
- (10)長崎県長崎市小江町86番地の1所在の木造セメント瓦葺2階建1棟(146.34平方メートル)
- (11)長崎県長崎市大浜町934番地の1所在鉄筋コンクリート造陸屋根8階建ケアハウス大浜施設1棟(延2,598.47平方メートル)
- (12)長崎県長崎市岩瀬道町14番18所在の木造ルーフィング葺2階建グループホーム・ケアホーム「楓」施設1棟(97.73平方メートル)
- (13)長崎市向町2377番3所在のグループホーム小浦の里「ひまわり」宅地1筆(519.98平方メートル)
- (14)長崎市向町2378番地、2377番地1所在の鉄骨造陸屋根2階建グループホーム小浦の里「ひまわり」(299.2平方メートル)
- (15)長崎市向町2376番所在のグループホーム小浦の里「ひまわり」(327平方メートル)
- (16)長崎市向町2377番1所在のグループホーム小浦の里「ひまわり」((166.36平方メートル)
- (17)長崎市向町2366番2所在のグループホーム小浦の里「ひまわり」((52.99平方メートル)
- (18)長崎市向町2376番地、2366番地2所在の軽量鉄骨造2階建グループホーム小浦の里「第2ひまわり」((207.33平方メートル)
- (19)長崎県長崎市小江町2734番の88所在の敷地1筆(1609平方メートル)
- (20)長崎県長崎市小江町14番所在の敷地1筆(1814平方メートル)
- (21)長崎県長崎市小江町15番所在の敷地1筆(1315平方メートル)
- (22)長崎県長崎市小江町15番2所在の敷地1筆(26平方メートル)
- (23)長崎県長崎市小江町16番所在の敷地1筆(297平方メートル)
- (24)長崎県長崎市小江町2734番の88所在の鉄骨造2階建(540.50平方メートル)
- (25)長崎県長崎市式見町461番8、461番7所在の小規模多機能介護センターオーシャン(322.00平方メートル)
- (26)長崎県長崎市畝刈町1613番249所在のよつば保育園駐車場宅地1筆(239.33平方メートル)
- (27)長崎市小江町2734番108の敷地1筆(1610.39平方メートル)

- (28) 長崎市小江町2734番111の敷地1筆 (1004.42平方メートル)
 - (29) 長崎市畝刈町1613番地278所在の鉄筋コンクリート造陸屋根3階建
 - (30) 長崎市向町2376番地・2377番地1・2377番地3所在の鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき陸屋根2階建グループホーム小浦の里「第3ひまわり」 (271.12平方メートル)
 - (31) 長崎市小江町2734番108所在の障害者福祉施設(314.26平方メートル)
 - (32) 長崎市小江町2734番111所在の障害者福祉施設(488.57平方メートル)
- 3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産は、第37条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第30条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、長崎市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、長崎市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）
- (3) 社会福祉施設整備のための資金に対する融資を行う確実な民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合で、当該事業計画が適切であるとの関係行政庁による意見書を所轄庁に届け出た場合。尚、当該貸付に係る償還が滞った場合には、遅延なく所轄庁に届け出るものとする。

(資産の管理)

第31条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第32条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第33条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第34条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第35条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第36条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第37条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業
- (2) 介護保険法に基づく居宅サービス事業
 特定施設入居者生活介護（介護予防含む）事業
- (3) 有料老人ホーム事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

第8章 解散

（解散）

第38条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第39条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第9章 定款の変更

（定款の変更）

第40条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、長崎市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を長崎市長に届け出なければならない。

第10章 公告の方法その他

（公告の方法）

第41条 この法人の公告は、社会福祉法人クローバーの掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

（施行細則）

第42条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員、評議員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員の選任を行うものとする。

理事長	中嶋	幸廣
理 事	久保田	恭弘
〃	樋上	良三
〃	佐藤	恭造
〃	中村	栄
〃	中村	孝
〃	田中	一幸
監 事	浦川	忠義
〃	野田	秀樹

当定款は、昭和62年4月1日より施行する。

この定款は、昭和63年12月8日変更の認可により改める。

この定款は、平成3年8月6日変更の認可により改める。

この定款は、平成4年6月10日変更の認可により改める。

この定款は、平成4年11月18日変更の認可により改める。

この定款は、平成5年9月28日変更の認可により改める。

この定款は、平成6年1月26日変更の認可により改める。

この定款は、平成6年7月11日変更の認可により改める。

この定款は、平成8年6月13日変更の認可により改める。

この定款は、平成8年11月18日変更の認可により改める。

この定款は、平成10年11月10日変更の認可により改める。

この定款は、平成11年9月29日変更の認可により改める。

この定款は、平成12年6月5日変更の認可により改める。

この定款は、平成14年1月9日変更の認可により改める。

この定款は、平成15年5月27日変更の認可により改める。

この定款は、平成17年4月1日変更の認可により改める。

この定款は、平成18年9月6日変更の認可により改める。

この定款は、平成18年10月23日変更の認可により改める。

この定款は、平成19年4月25日変更の認可により改める。

この定款は、平成19年12月27日変更の認可により改める。

この定款は、平成20年7月17日変更の認可により改める。

この定款は、平成21年12月10日変更の認可により改める。

この定款は、平成22年7月30日変更の認可により改める。

この定款は、平成23年6月21日変更の認可により改める。

この定款は、平成23年10月19日変更の認可により改める。

この定款は、平成24年6月20日変更の認可により改める。

この定款は、平成24年10月4日変更の認可により改める。

この定款は、平成25年8月5日変更の認可により改める。

この定款は、平成26年8月18日変更の認可により改める。

この定款は、平成27年1月28日変更の認可により改める。

この定款は、平成27年4月30日変更の認可により改める。

この定款は、平成27年6月25日変更の認可により改める。

この定款は、平成28年3月28日変更の認可により改める。

附則

- 1 この定款は、平成29年4月1日から施行する。

この定款は、平成29年7月6日変更の認可により改める。

この定款は、平成30年6月12日変更の認可により改める。

この定款は、令和元年8月30日変更の認可により改める。

この定款は、令和2年4月27日変更の認可により改める。

この定款は、令和2年9月25日変更の認可により改める。

この定款は、令和3年4月1日変更の認可により改める。

附則 2 第5条で定める評議員の人数は、平成29年4月1日から平成32年3月31日までの間は「4名以上」とする。